

東京通信病院 脳神経外科特集

Doctor's interview

脳神経外科 医師
鮫島 哲朗
Sameshima Tetsuro

01

医師を目指されたきっかけと、脳神経外科を専門とされた理由をお聞かせください。

母親が病気がちで父親が教職員で超多忙であったため、幼少期に遠方の親戚の家に預けられて育った私は、月に一度、母親との面会に連れられて病院に行く機会がありました。当時の病院は独特の匂いがし、主治医と父親や親戚との面談の間にガラスケースの中に置かれた様々な大きさの注射器や冷たく光る細かな医療器具を1人食い入るように眺めていたことを今でも鮮明に覚えています。その頃から私は母親を含め、ここで苦しんでいる1人でも多くの患者さんを助けたいという気持ちが芽生えはじめ、自然に医学部を目指しました。当初はサッカーで鍛えた体力だけは自信があったことや救命救急に興味があったこともあり、九州大学の救急部で研修を受けました。しかしながら次第により専門性のある科にも憧れるようになり、当時の脳神経外科教授が人格者で優れた臨床医であったこともあり、脳神経外科を専門とするようになりました。

02

医師になり最も注力してきたことについてお聞かせください。

また、今後の展望についてのお考えをお聞かせください。

脳神経外科の専門医を取得し、腫瘍細胞を用いた実験で医学博士を取得しましたが、外科医となったからにはやはり手術が上手になりたい、目の前の患者さんを何とかして助けたいと考え、アメリカに留学し「神の手」と呼ばれた福島孝徳先生が在籍する Duke 大学で手術の勉強をしました。当初は単なる見学だけの予定でしたが、同大学から就労ビザが下り、主に研修医の指導を行うことになりました。その経験からイタリアはトリノ大学の客員教授となり、海外の若手医師の教育に力を注ぎ



できました。帰国後、昨年の9月までは大学病院に勤務しておりましたが、そこの若手医師は慣れた頃にすぐに関連病院にローテーションとして出されてしまうため、手術ができる本物の脳外科医を腰を落ち着けて育てることが困難であったことが最大の悩みでした。幸いにも今年の4月より外科医として才能のある若手と中堅の2人の医師が当院に新たに入職するため、私の持っている技術や経験を少しでも伝えることができる環境が作れます。また脳外科医志望の3人も研修医として入職してくる予定であり、現在定期的に行っている脊椎脊髄疾患および脳腫瘍手術のみならず救急全般、特に脳血管障害（脳卒中）の救急にも強い脳神経外科として生まれ変わることが大いに期待されるところです。

03

東京逋信病院脳神経外科の特徴

現在、当院の脳神経外科は、脊椎脊髄疾患と脳腫瘍の手術を中心に診療しています。脊椎脊髄疾患は張 漢秀医師、佐野史弥医師が担当し、脳腫瘍は鮫島が担当しております。両疾患とも全国から患者さんが紹介されており、脊椎脊髄は固定が不要な脊椎手術を得意とし、脳腫瘍は他院では治療困難な症例、他院で一度手術を受けたが上手くいかなかった症例や再発症例および頭蓋底手術を得意としています。これにより昨年4月より脳腫瘍・頭蓋底外科センターを設立し、手術件数が飛躍的に増加しております。これは



麻酔科、耳鼻科、眼科、内分泌科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科・外科をはじめ、経験豊富で正確な術中モニタリングを行う神経生理検査技師（山下技師）、病棟・手術室看護師、リハビリスタッフ、薬剤師などの優れたパラメディカルの協力であることは言うまでもありません。さらに前述のようにこの春よりアクティブなスタッフが増員され、脳血管造影装置もリニューアルされます。そのため脳卒中を含めた救急にも力を入れる余裕ができることから、よりバランスのとれた診療科を目指していきたいと思います。

04

最後に、けんこう家族をご覧の方へメッセージをお願いします。

東京逋信病院脳神経外科は全国から紹介されてくる患者さんに対して高度な診療および手術を提供しています。セカンドオピニオンも随時受け付けており、他院で治療中の患者さんも遠慮無く御相談いただければと思います。

メールでの御相談も常時受け付けております。

脳神経外科 鮫島哲朗

tetsurosameshima@gmail.com

